

横浜市立折本小学校



校長  
古屋 澄人

# 学校だより

令和3年10月29日

11月号

折本小学校  
HP



## 「好奇心」をもつこと

校長 古屋 澄人

10月5日、<sup>まなべしゅくろう</sup>真鍋淑郎さん（米プリンストン大学上席研究員）が、2021年のノーベル物理学賞を受賞しました。現在は全世界の問題として地球温暖化が大きな関心を集めています。温暖化という言葉も全くなかった1950年代で二酸化炭素などの温室効果ガスに着目し、地球温暖化の予測に関する先駆的な研究を続けた業績が高く評価されました。

真鍋さんの研究のきっかけは、天気予報のモデルや気候の変化について関心をもって、なぜ、こういうことが起こるのかなど気候変動について真鍋さん自身の「好奇心」がもとになって研究をはじめたことが受賞につながったとのこと。

2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが化学への興味をもったきっかけとなった原点は、小学校4年生の時に当時の担任からすすめられて読んだ「ロウソクの科学（ファラデー著）」であったということが当時話題になりました。「好奇心」や「興味・関心」をもつということは、何かを始める時の源になることを改めて感じました。

先日、令和3年度の全国学力学習状況調査の結果の概要と分析をお知らせしました。本校6年生の国語・算数の平均正答率については、全国平均を概ね上回っているという結果を報告しました。しかし、「国語・算数の勉強が好き」と答えた子どもたちの割合が全国平均よりも低い結果になっています。地域との関わりについては、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」と答えた子どもたちの割合が高いことがわかりました。

本校では、生活科や総合的な学習の時間を中心として、地域や保護者の皆様の協力のもと地域の工場見学や商業施設との連携、野菜の栽培活動を進めています。日頃から地域と関わりながら学習を進めている子どもたちは、友達を含めた多くの人と協働的に学ぶことのよさを自覚してきています。これからの子どもたちに求められる「持続可能な社会の創り手」となるように、国語・算数に限らず身近な出来事から好奇心をもって、興味・関心を高めていけるように授業改善に向けて取り組んでいきます。